

# 新病院の病床規模について

## □ 新病院構想における考え方

- ① 現行の600床程度を上限とした病床規模を想定
- ② 診療内容や患者予測に基づく必要数、他病院との役割分担など多方面から考慮
- ③ 施設面の制約や病棟の種別構成等も含めて最適な規模を検討

## □ 新病院位置付け

⇒ ハイパー急性期へシフト

必要となる病床の算定(2025年の病床区分)

## 必要病床数算定の考え方（2025年の病床区分を考慮）

- 1 現病院入院患者実績データから次の4区分に分類
  - ①高度急性期
  - ②一般急性期
  - ③亜急性期 I
  - ④亜急性期 II
- 2 2025年の各区分における平均在院日数の目標値（厚労省）を、新病院の平均在院日数とし、現状の平均在院日数との減少率で調整
- 3 浜松市の将来患者数は2010年から2025年の増加率により調整
- 4 病床利用率は、85 %、90 %とする。

# 2025年の平均在院日数の目標値（厚労省における方針）

## 医療・介護サービスの需要と供給（必要ベッド数）の見込み

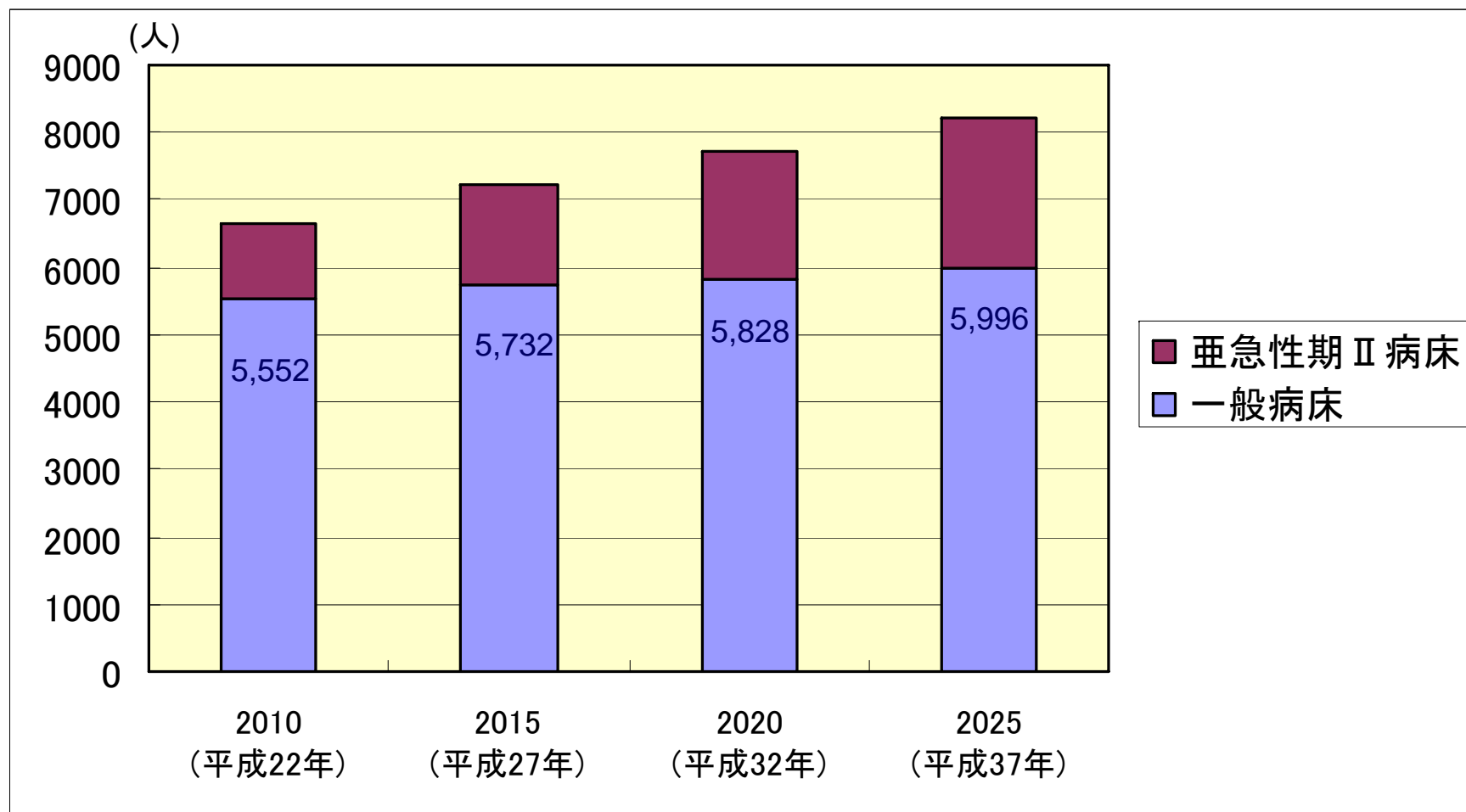
パターン1	平成23年度 (2011)	平成37(2025)年度		
		現状投影シナリオ	改革シナリオ	
			各ニーズの単純な病床換算	地域一般病床を創設
高度急性期	【一般病床】 107万床 75%程度 19~20日程度	【一般病床】 129万床 75%程度 19~20日程度	【高度急性期】 22万床 30万人/月 70%程度 15~16日程度	【高度急性期】 18万床 25万人/月 70%程度 15~16日程度
一般急性期	退院患者数 125万人/月	(参考) 急性 15日程度 高度急性 19~20日程度 一般急性 13~14日程度 亜急性期等 75日程度 亜急性期等 57~58日程度 長期ケース 190日程度 ※推計値	【一般急性期】 46万床 109万人/月 70%程度 9日程度	【一般急性期】 35万床 32万人/月 70%程度 9日程度
亜急性期・ 回復期リハ等		152万人/月	【亜急性期等】 35万床 16万人/月 90%程度 60日程度	【亜急性期等】 26万床 22万人/月 90%程度 60日程度
長期療養（慢性期）	23万床、91%程度 150日程度	34万床、91%程度 150日程度	28万床、91%程度 135日程度	
精神病床	35万床、90%程度 300日程度	37万床、90%程度 300日程度	27万床、90%程度 270日程度	
（入院小計）	166万床、80%程度 30~31日程度	202万床、80%程度 30~31日程度	159万床、81%程度 24日程度	159万床、81%程度 25日程度
介護施設	92万人分	161万人分	131万人分	
特養	48万人分	86万人分	72万人分	
老健（老健+介護療養）	44万人分	75万人分	59万人分	
居住系	31万人分	52万人分	61万人分	
特定施設	15万人分	25万人分	24万人分	
グループホーム	16万人分	27万人分	37万人分	

(注1) 医療については「万床」はベッド数、「%」は平均稼働率、「日」は平均在院日数、「人/月」は月当たりの退院患者数。介護については、利用者数を表示。  
 (注2) 「地域一般病床」は、高度急性期の1/6と一般急性期及び亜急性期等の1/4で構成し、新規入退院が若干減少し平均在院日数が若干長めとなるものと、仮定。  
 ここでは、地域一般病床は、概ね人口1万人未満の自治体に暮らす者(今後250~300万人程度で推移)100人当たり1床程度の整備量を仮定。

出典: 中医協「医療提供体制について」(平成23年11月25日)

## 浜松市の将来推計患者数（一般病床）

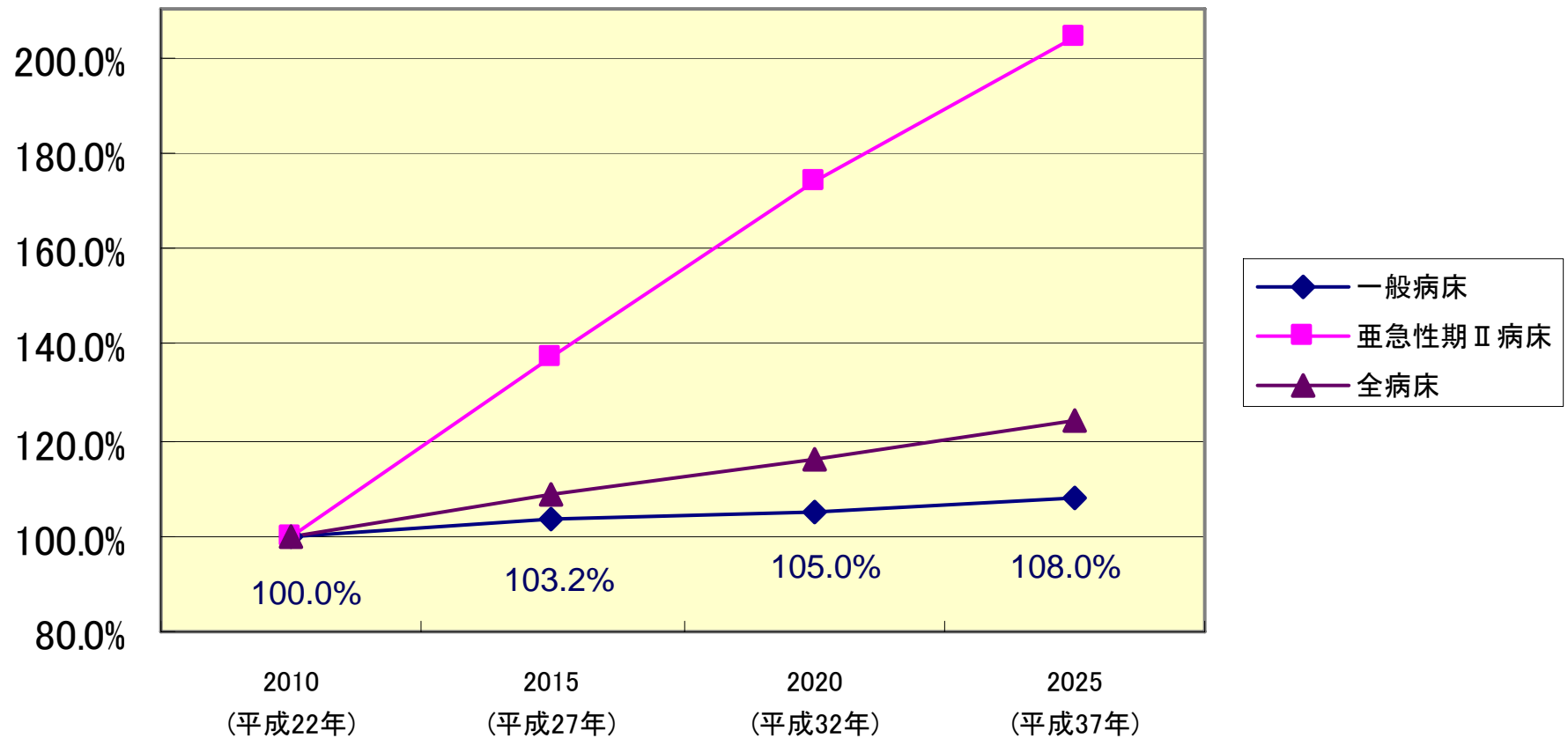
2010年から2025年の一般病床の入院患者数は5,552人から5,996人へ推計



出典: 平成23年患者調査(厚生労働省)、平成20年12月推計 日本の市区町村別将来推計人口(国立社会保障・人口問題研究所)よりアイテック算出

## 浜松市の将来推計患者数（一般病床）

2010年から2025年の一般病床の入院患者数の増加率は108.0%  
(亜急性期Ⅱ病床の患者増加率:204.1%、全病床の患者増加率:123.8%)



出典:平成23年患者調査(厚生労働省)、平成20年12月推計日本の市区町村別将来推計人口(国立社会保障・人口問題研究所)よりアイテック算出

## 分類区分の振り分け

### 【高度急性期】

- 重度の急性疾患(心筋梗塞、脳動脈瘤破裂等)や悪性腫瘍、高度な専門的手術・治療等が必要な患者を抽出するため、MDC別手術あり患者数において、  
入院期間が、各MDCの平均在院日数以上 60日以下の患者数

### 【一般急性期】

- 入院日数別退院患者数から、上記、高度急性期病床患者数を差し引いた患者数において、  
入院期間が、30日以下の患者数

### 【亜急性期 I】

- 入院日数別退院患者数から、上記、高度急性期病床患者数を差し引いた患者数において、  
入院期間が、31日以上60日以下の患者数

### 【亜急性期 II】

- 入院日数別退院患者数から、上記、高度急性期病床患者数を差し引いた患者数において、  
入院期間が、61日以上の患者数

分類区分(2010年)	実患者数 (人)	延患者数 (人)	1日あたり 患者数(人)	平均在院日数 (日)
①高度急性期	978	26,756	73	27.4
②一般急性期	11,334	88,361	242	7.8
③亜急性期 I	623	26,185	72	42.0
④亜急性期 II	295	45,920	126	155.7

出典:平成22年入院期間別退院患者数、平成22年MDC別入院期間別患者数(手術あり)

## 各区分における患者数の算定

分類区分	2010年 1日患者数 (人) <i>a</i>	2010年 平均在院 日数(日) <i>b</i>	新病院の 平均在院日数 目標値(日) ※1 <i>c</i>	平均在院日数 減少率 $d=c/b$	2010-2025の 浜松市内における 病院の入院患者 増加率 <i>e</i>	新病院 1日入院 患者数 (人) $f=a \times d \times e$
①高度急性期	73	27.4	15.0	54.8%	108.0%	44
②一般急性期	242	7.8	7.8	100.0%	108.0%	261
③亜急性期Ⅰ	72	42.0	42.0	100.0%	108.0%	77
④亜急性期Ⅱ	126	155.7	135.0	86.7%	204.1%	223
計	513					605

※1: 医療政策上の2025年の設定値。ただし、一般急性期及び亜急性期の平均在院日数の目標値は9日、60日に設定されているが、現時点で下回る水準となっているため、新病院の目標値は現状維持とする。

## 必要病床数の算定

分類区分	必要病床数(床)	
	病床利用率85%	病床利用率90%

①高度急性期	52	49
②一般急性期	308	290
計	360	339

③亜急性期Ⅰ	91	86
④亜急性期Ⅱ	263	248
計	354	334



# 新病院の病床規模

